

[曲 名] Nymphes et Faunes

ニンフとファン

[曲 種] danse champetre

[作曲者] Vincenzo Billi

ヴィンチェンツォ・ビルリ

[編曲者]

アルマンノ・モルラッキにより1910年ミラノのリコルディから出版された。

ジェームス・エリスウォルス夫人に贈られた田園調舞曲で作品190番。

野趣豊かなリズムに乗って軽快で諧謔的な旋律が様々に変化してゆく。

ニンフは多くは泉の湧くような所に住み、ファン（牧神）は腰から下が山羊、上半身は人間、顔は山羊に似て獅子鼻で角が二本ある姿に表される。

陽気な神であり知恵者で予言をした。

日中は山や谷を歩き回り、真昼に昼寝をする。

牧人の好む草笛は、ファンの発明と云われ、葦笛、松葉の冠、牧人の杖がこの神の所属物である。

麗かに晴れた五月の空、柔らかい陽光に緑の牧場は冴えわたる。

この緑に誘われて裸身のニンフが舞い出る。

そよ吹く風の調べにつれて彼女らは野から小川へ、小川から森へと舞い続ける。

其処へ午睡の夢が破られた牧神が葦笛吹きつつ現れる。

彼女らに戯れる牧神、胡蝶の如く身をひるがえすニンフ。

再び小川へ牧場へ、そして迫りくる夕暗をのがれて彼女らは何処ともなく消え去る。

1969年10月31日発行

イタリアのマンドリンアンサンブル佳曲百曲集第一集より

